

## 「未来医療研究人材養成拠点形成事業」における工程表

申請担当大学名	新潟大学
連携大学名	新潟医療福祉大学、新潟薬科大学
事業名	オール新潟による『次世代医療人』の養成

### ① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	新潟大学において超高齢社会に対応できる次世代医療人を育成できる環境を整える。 ・魚沼地域を新潟大学における総合診療教育の教育・研究フィールドとして設定し、人的資源を育成できるシステムを作る ・同地域に新潟大学が関与し運営される魚沼基幹病院並びに新潟大学魚沼地域医療教育センターにおいて総合診療医専門医を取得できるコースを設置する

### ② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
インプット ・ プロセス (投入、 入力、 活動、 行動)	定量的なもの	・プライマリコース新規受入: 医学部4年生2名	・プライマリコース新規受入: 医学部4年生5名	・プライマリコース新規受入: 医学部4年生5名 ・アドバンスドコース新規受入: 初期研修医5名	・プライマリコース新規受入: 医学部4年生5名 ・プライマリコース新規受入: 医学部3年生5名 (医学科カリキュラム改編に伴うもの) ・アドバンスドコース新規受入: 初期研修医5名	・プライマリコース新規受入: 医学部3年生5名 ・アドバンスドコース新規受入: 初期研修医5名
	定性的なもの	・次世代医療人育成センターを設置 ・次世代医療人育成センター主催シンポジウム開催 ・トータルケアワークショップとフィールドワークを開催 ・高齢化地域におけるアンケート調査を実施する	・次世代医療人育成センター主催シンポジウム開催 ・トータルケアワークショップとフィールドワークを開催(年2回) ・高齢化地域におけるアンケート調査を実施する	・次世代医療人育成センター主催シンポジウム開催 ・トータルケアワークショップとフィールドワークを開催(年2回) ・高齢化地域におけるアンケート調査を実施する	・次世代医療人育成センター主催シンポジウム開催 ・トータルケアワークショップとフィールドワークを開催(年2回) ・高齢化地域におけるアンケート調査を実施する	・次世代医療人育成センター主催シンポジウム開催 ・トータルケアワークショップとフィールドワークを開催(年2回) ・高齢化地域におけるアンケート調査を実施する
アウトプット (結果、 出力)	定量的なもの	・プライマリコースで2名が医学研究実習終了・発表 ・センター主催のシンポジウムに100名参加する ・トータルケアワークショップ・フィールドワークに医療系学生15名が参加する	・プライマリコースで5名が医学研究実習終了・発表 ・センター主催のシンポジウムに50名参加する ・トータルケアワークショップに医療系学生が30名参加する	・プライマリコースで5名が医学研究実習終了・発表 ・センター主催のシンポジウムに50名参加する ・トータルケアワークショップに医療系学生が30名参加する	・プライマリコースで10名が医学研究実習終了・発表 (医学科カリキュラム改編に伴うもの) ・センター主催のシンポジウムに50名参加する ・トータルケアワークショップに医療系学生が30名参加する	・プライマリコースで5名が医学研究実習終了・発表 ・センター主催のシンポジウムに50名参加する ・トータルケアワークショップに医療系学生が30名参加する
	定性的なもの	・医学研究実習の成果発表(シンポジウム、学会) ・公開シンポジウムでの発表	・医学研究実習の成果発表(国内学会) ・トータルケアワークショップの報告書を作成し、学んできたことを周知する	・医学研究実習の成果発表(国内学会) ・トータルケアワークショップの報告書を作成し、学んできたことを周知する ・アドバンスドコース研修医がシミュレーションを用いた実習を行うことができる	・医学研究実習の成果発表(国内学会) ・トータルケアワークショップの報告書を作成し、学んできたことを周知する ・アドバンスドコース研修医がシミュレーションを用いた実習を行うことができる	・医学研究実習の成果発表(国内学会) ・トータルケアワークショップの報告書を作成し、学んできたことを周知する ・アドバンスドコース研修医がシミュレーションを用いた実習を行うことができる

	定量的なもの	・魚沼地域におけるシンポジウムでは地域の医療関係者を中心に100名参加し、プログラムの主旨を広報できる	・センター主催のシンポジウムに50名が参加し、医学生・医療関係者を中心にプログラムの主旨が理解される	・センター主催のシンポジウムに50名が参加し、医学生・医療関係者を中心にプログラムの主旨が理解される ・新潟県内で研修を希望する初期研修医が10名増加する	・センター主催のシンポジウムに50名が参加し、医学生・医療関係者を中心にプログラムの主旨が理解される ・新潟県内で研修を希望する初期研修医が15名増加する	・センター主催のシンポジウムに50名が参加し、医学生・医療関係者を中心にプログラムの主旨が理解される ・新潟県内で研修を希望する初期研修医が15名増加する ・魚沼基幹病院を中心とした病院群が形成する総合診療専門医プログラムに5名が登録する
アウトカム (成果、効果)	定性的なもの	・新潟大学が地域内でのアンケート調査を実施することで、地域内での健康に関する意識が高まる ・プライマリケアコースでは口腔ケアや生活不活発病に着目したワークショップを行うことで医療系学生の関心を呼ぶことができる ・平成25年度報告書を作成する	・新潟大学が地域内でのアンケート調査を実施することで、地域内での健康に関する意識が高まる ・プライマリケアコースでは口腔ケアや生活不活発病に着目したワークショップを行うことで医療系学生の関心を呼ぶことができる	・新潟大学が地域内でのアンケート調査を実施することで、地域内での健康に関する意識が高まる ・プライマリケアコースでは口腔ケアや生活不活発病に着目したワークショップを行うことで医療系学生の関心を呼ぶことができる ・アドバンスドコースの研修医には口腔ケアや生活不活発病予防の重要性を理解するとともに、総合診療医への指向を強める	・魚沼基幹病院を中心とした病院群で総合診療専門医プログラムを構築し、登録する ・新潟大学が地域内でのアンケート調査を実施することで、地域内での健康に関する意識が高まる ・プライマリケアコースでは口腔ケアや生活不活発病に着目したワークショップを行うことで医療系学生の関心を呼ぶことができる ・アドバンスドコースの研修医には口腔ケアや生活不活発病予防の重要性を理解するとともに、総合診療医への指向を強める	・新潟大学が地域内でのアンケート調査を実施することで、地域内での健康に関する意識が高まる ・プライマリケアコースでは口腔ケアや生活不活発病に着目したワークショップを行うことで医療系学生の関心を呼ぶことができる ・アドバンスドコースの研修医には口腔ケアや生活不活発病予防の重要性を理解するとともに、総合診療医養成プログラムへ参加する

### ③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	医療のパラダイムシフトの契機となるよう、従来の固定観念にとらわれることなく新たな発想で事業を実行すること。	例えば誤嚥性肺炎の予防などにおいては、これまで医科と歯科との連携は必ずしも十分とは言えなかった。平成23年からは日本人の死因第4位に肺炎がのぼってきたように高齢者の増加に伴う疾病構造の変化が見てとれる。そのような中、誤嚥性肺炎の予防に医科歯科連携をもって臨む試みは意外とされてこなかった。生活不活発病についても同様であり、医師は多くは医療モデルによる疾病の治療を目指すものの、生活モデルからの観点で高齢者に対応していくことを学んでこなかった。これらを一元的に学ぶことでより生活モデルに密着した総合診療医を育成できるようにする。
②	事業期間中のアウトプット、アウトカムを年度ごとに明確にし、達成状況の工程管理を行うこと。	上表にある様に年度毎のインプット、アウトプット、アウトカムを明確にし、目標を達成する。
③	事業の実施にあたっては、一部の教員や一部の組織のみで実施するのではなく、学長・学部長等のリーダーシップのもと、全学的な実施体制で行うこと。また、事業の責任体制を明確にすること。	本補助金を運営する「次世代医療人育成センター」を設置するとともに、専任教員を雇用する。更に次世代医療人育成センターの活動のために、これまでの補助金で培われてきた実施体制、具体的には医師キャリア支援センター(専門教育)、新潟大学大学院総合地域医療学講座(卒前教育)、さらには新潟大学臨床研修センター(臨床研修)など医学教育に関わるセクションと連携することで卒前から卒後に至る一貫した体制を構築する。
④	事業期間終了後も各大学において事業を継続されることを念頭に、具体的な補助期間終了後の事業継続の方針・考え方について検討すること。	本事業がその主たる実施フィールドの一つとして想定している魚沼地域では平成27年度に地域の医療再編に伴う魚沼基幹病院が開院する予定となっている。また魚沼基幹病院に併設して新潟大学魚沼地域医療教育センターを設置することとなっている。また魚沼コホースタディも同施設を利用して行われることになっており、魚沼地域は新潟県における総合診療教育、臨床研究のフィールドとして想定されることなどから、補助事業終了後は大学単独の運営では無く、新潟県並びに市町村と連携を強化し事業が継続される体制を検討する。
⑤	成果や効果は可能な限り可視化しうえで社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、導入に至る経緯や実現するためのノウハウ、留意点、ポイント等についても情報発信すること。	ホームページ上での情報発信を随時行っていく。また年度毎に成果を印刷物として作成し、発信していく。「オール新潟による『次世代医療人』の養成ホームページURL: <a href="http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/jisedai/">http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/jisedai/</a>

### ④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点、留意事項)	対応方針
地域の医療ニーズの具体的な把握方法を明確にすることが望ましい。	新潟県の委託により新潟大学医歯学総合病院内に設置された「地域医療支援センター」が、平成25年度に新潟県内の医療機関で働く医療人に対してSF36を用いた日常生活満足度アンケート調査を実施している。また平成26年度にはそれら地域医療機関を受診する地域の患者を対象に医療満足度に関するアンケート調査を予定している。それらの調査結果を基に地域の医療機関、並びに住民の医療ニーズを把握し、新潟県と連携して施策に生かしていく。